

つやま子ども観光ガイドが誕生するまで

元津山郷土博物館長の尾島治さんを講師に迎え、子どもたちが学んだ、観光ガイド育成塾の様子を振り返ります。

7月25日 城下町の成り立ちを探る



津山の城下町の成り立ちや特徴を教わった後、城東地区を散策しました

10月17日 城東地区の謎を探る



町の発展の歴史や町名の由来などを教わりました

10月31日 ガイド説明文を考えよう



ガイドの方法やコツを教えてください、発表の練習をしました

11月14日 観光ガイドに挑戦しよう



家族や友だちに、城東地区の見どころを案内しました

5 全国でも珍しい洋学専門の資料館 津山洋学資料館

薬学や植物学、内科の分野を研究した宇田川家三代や、幕末にアメリカやロシアとの外交で活躍した箕作阮甫など、津山にゆかりのある洋学者の資料を展示しています。

建物は「津山洋学五峰」(宇田川玄随、宇田川玄真、宇田川榕菴、箕作阮甫、箕作秋坪)をイメージし、五角形を組み合わせた形をしています。



展示室の天井



宇治岳範さん

洋学資料館が城東地区にあるのは、箕作阮甫が生まれ育った町だからです

阮甫は、後に東京大学となる蕃書調所の首席教授で、大学教授の第1号とも言えます



井上幸菜さん



小坂百和さん

宇田川榕菴は「細胞」「酸素」「水素」などの化学用語や、「珈琲」の当て字を作りました

館内のいろいろな所に五角形が隠れているので、探してみてください



池嶋日菜子さん



近藤淳人さん

宇田川玄随は漢方医でしたが、西洋医学の正確さを知り、西洋医学の医者に転向しました



城東地区には、今回子どもたちが紹介した場所以外にも、見どころがたくさんあります。ゆっくり散策すると、今まで気付かなかった発見があるかも知れません。あなたも、城東地区の歴史を探りに出掛けてみませんか。

2 大商人の大きな屋敷 城東むかし町家(旧梶村家住宅)

江戸時代は札元(現在の銀行のような仕事)、明治時代に入ると銀行、ガス会社、製紙会社などの商いをしていた梶村家の住宅です。敷地内には、江戸時代~昭和時代に建てられた、さまざまな建物が残っています。



廣瀬真洋さん

庭にあるタラヨウの木は、葉にとがったもので文字を書くことができるので、葉書の語源になったといわれています

1 江戸時代には20軒以上あった! 城東地区の鍛冶屋

よく切れ、長く使えると評判だった「作州鎌」などの農具を作っていました。鍛冶屋は火を使うので、火事が広がらないよう、また城下町の外に住む農民が買いに来やすいよう、町の東の端に集まっていた。



皆木みち瑠さん

鍛冶屋の屋根には煙出し口があり、普通の町家と見分けることができます



4 町で発展で名前が変わった? 中之町の名前の由来

城下町ができたころは下級武士が住む「足軽町」でしたが、町人が増えたため、藩から町人に払い下げられました。当時、町人が住んでいた橋本町・林田町・勝間田町と西新町・東新町の中間だったため「中之町」になったと考えられます。



山本真子さん

道がかぎ型に曲がった「大曲がり」は、敵を防ぐためともいわれていますが、払い下げの時、屋敷を建てる敷地に合わせて曲げられたようです

3 箕作阮甫旧宅で見てみよう! 城東地区の町家のつくり

間口の広さは家によって違いますが、どの家も奥行きは約30メートルです。限られた敷地を広く使うため、家と家の間に壁は1枚しかありません。生活の音が聞こえないよう、東側は土足のまま中庭に抜ける通り土間、西側は居室と、町全体で協力してそろえていました。



有岡千景さん

中庭の塀も、それぞれの家が西側だけに作り、隣同士で共有して敷地が狭くなるのを防ぎました

城東地区のひみつ

あなたはいくつ知っていますか?
小・中学生が津山の歴史や文化を学び、観光ガイドに挑戦する「つやま子ども観光ガイド育成塾」。令和3年7月~11月にかけて、城東地区について学んだ子どもたちが、見つけた秘密や見どころを紹介します。

図 学校教育課 32-2114